



杉本理事長あいさつ

第6回会員総会

研究と実践で新たな飛躍を

坂林 哲雄 (協同総研専務理事)

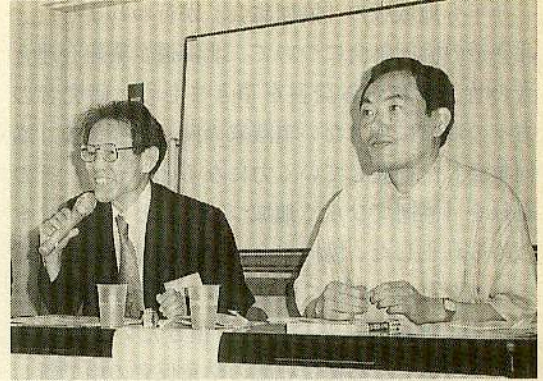
第6回総会が6月30日(日)東京芸術劇場にて行われました。出席は65名、委任状が153通で総会が成立し、提案された議案は全員の賛成で承認されました。議案にも触れながら、当日の議論のまとめを紙上でさせていただきます。

「法制化研究会」で「労働者協同組合法第2次要綱」をまとめることができたことが、昨年度のもっとも大きな成果だと思っています。最終的には6月30日の研究集会の議論を基礎に文案の整理

をして、今後の法制化運動の柱にさせていただけるように関係者をお願いすることになります。この法案要綱は日本労働者協同組合連合会の委託事業で行なってきたもので、日本労働者協同組合連合会参加の各組織で議論して頂くことはもちろんですが、ワーカーズコレクティブネットワークジャパンをはじめとして他の市民事業組織や研究者の方々の間でも幅広く議論の遡上に登ることを期待しています。研究所では新年度、研究会の継続を通じて幅広い研究者の合意賛同運動を行なってい

くつもりでいます。「労働者協同組合法が視野に入り、実践者の主体の高まりとともに、労働者協同組合法の制定へ向け道が開けてきたように思っている」と日本労働者協同組合の永戸理事長がいさつされましたが、要綱が最終的に法律にならないと意味がありません。運動主体とも一緒になって運動を進めて行きます。会員の皆さんにも関心を持って頂きご意見を寄せて頂ければと思います。

また、高齢者協同組合の取組が本格的になり、それとともに協同総合研究所が少しづつですが協同組合関係者の枠を越えて広がり始めていることを嬉しく思っています。高齢者協同組合について、その事業的可能性の点を心配されている方がいらっしゃいます。総会の席では長野県高齢者協同組合の安井さんが報告されました。地域に役立つ仕事を旗印に知恵も経験も豊富な高齢者が、そして地元のことを最も良く知っている高齢者が集うと、これほど豊かな事業が創造できるのかと、



荒木昭夫・的場信樹両議長

参加者の気持ちを十二分に引き付ける話だったと思います(本号9頁)。事業が成り立たないから協同組合ができないというのは一面の真理だと思います。しかし、協同組合の全てが最初からうまくいっていたわけではありません。日本の生協運動も初期の困難な事態があったわけだし、今後わからないと言われています。高齢者協同組合の設立に関して思うのは、高齢者が社会からも場合によっては家族からも疎外されている現実の中で、社会参加、仲間づくりということが如何に高齢者の元気な老後を支えるかということです。それは集うということからスタートしています。協同の原点からの出発であり、社会にとって必要な仕事を行い参加者の知恵で採算を含めて合わせていこうというものです。90才のお年寄りからキウイの畑を借り受け、高齢者で皆で働きにいったこと。リンゴの木の枝を障害者の施設に持ち込み、にじ鱈の薫製をつくる話。水田を借り受け大豆をつくる話。高齢者にはきついが山の木の伐採の話。全てが一般に言うところの労働者の賃金を計算すると採算の合う話ではないかもしれない。しかし、この労働は人にとって社会にとって必要な労働です。そうであればこんな形の仕事は何等かの形で成り立って行かないといけないのではないだろうか。高齢者協同組合は様々なことを考えさせられ、協同組合の新たな可能性を見せているように思います。全ての地域で会員の方々の支援と参加をお願いしたいと思います。

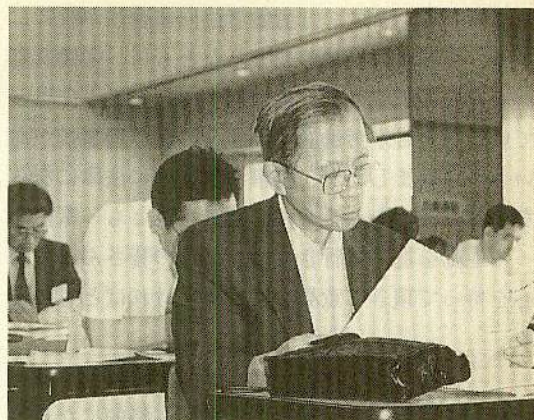
今年も地域版の「協同集会」が行われました。北海道の協同集会について、北海道企業組合連合会の竹下専務から発言を頂きました。研究者の方々の取組に負けない実践家の関りが今後の「協同集会」を継続していく力になるというので、その記録を『協同でひらく地域づくり』という本にまとめられました。協同集会の取組が具体的に書籍になったというのは、大変大きな意味があると思います。書籍の普及にご協力頂きたいと思ます。この集いを契機に札幌の学童保育の中で新しい協同の取組が始っています。市の児童館100館構想の中で小学校に隣接されていた学童保育所が児童館の設立によって市の補助（1万5千円/1人）を打ち切れようとしているとのこと。父母や心ある指導員は児童館ではこれまでに積み上げてきた学童保育の内容が継続されず、まともなカリキュラムもないこと、通えなくなる児童も多数出ることなど、既存の民間学童をなんとか残していこうとする運動が始っています。市の補助が打ち切られることで父母の負担は当然高くなるが、何とか共同保育所として残そうとされています。実現して欲しいと思ます。

個別研究会活動に関して佐賀の塚本会員から質問・意見がありました。研究会の名称や研究所での位置付け問題などもっとはっきりさせた方がよいのではないかとのご指摘でした。この点未整理となっているところだと思ます。また、会員の方々の自主研究が議案書に十分反映できなかった点は反省点です。情報の交流を含めて努力していきます。

総会出欠ハガキから

【磯部武】 神奈川県

草の根の協同組合づくり、班づくりについての取り組みやその理論などについて一般の人にわかりやすく購入しやすいパンフを考えて下されば（考えているだけではないのは承知していますが）更にと云う…



会員の数が415となりました。高齢者協同組合、労働者協同組合の運動の進展が協同総合研究所の広がりを生んでいます。総会当日も会員の加入がありました。知的障害者と身体障害者の協同施設をつくりたいと運動されている方です。現在ある多くの社会福祉施設への疑問から仲間の親とともに運動をはじめられています。実現できると日本で最初の「社会的協同組合」の誕生となるのではないかと期待が膨らんでゆきます。これからの運動で、様々な困難も当然予想されるわけですが、研究所としても、最大限の努力を惜しまないつもりでいます。

協同集会が11月23日、24日と仙台で行われます。何度か『協同の発見』でも取り上げてきました。特に、今回の協同集会では政策づくりが求められています。この点で研究所は課題別の研究会を発足させます。内容などに関しては今後所報で伝えていきます。最終的にまとめの報告をして頂く関係で研究会毎の委員を決めますが、可能な限り公開で行ないますので、多くの会員の方の参加をお願いします。

全米退職者協会のパーキンス次期理事長が協同集会のために来日されます。アメリカの高齢者組織としては最も著名な団体で全米で3400万に近い会員を擁する非営利組織です。活動の1例をあげると、55才からの運転者講習があります。高齢期の運転技術についての講習会で既に200万人の人が受講、これに合格すると自動車保険が通常より

総会出欠ハガキから

【宮島珠江】 大阪市

総会議案(13) 研究奨励制度について

2の項 対象は労働者協同組合を中心とした実践及び研究とし、労働者協同組合運動に限定しない、とありますがわかりにくいので、もう少し詳しくお聞かせ下さい。

【川辺一弘】 三重県

なかなか諸研究会に参加できないのが残念ですが。

教育現場と労働現場のつながりが、中等教育の見直しのなかで問われていると思います。

【池田考司】 北海道

教育の協同について、より多面的に扱って下さい。

安く加入できる特典付きです。このプログラムはボランティアが担っています。これは高齢者が自動車損害保険から除外されるのを防ぐ運動から生まれています。高齢者運動を進めていく上で貴重なお話を伺います。

初めて研究奨励制度を設けます。協同総研らしく研究成果だけではなく、協同運動の典型的な実践も対象として、会員の方からの推薦を受けて、選考したいと思います。大阪の宮島会員からもご質問頂きましたが、多数の推薦が集まることを願っています。具体的要綱は、秋以降に所報の中で案内します。

予算・決算について、労働者協同組合運動からの援助が大きなウエイトをしめています。この点で自立財政への道を明確に示すことが出来ていません。また、会費が未納となっている会員が1割程度います。財政の基礎であり一層の努力と共に、規則に基づく適正な措置を講じて行きます。角瀬副理事長から委託研究をもっと増やすことについてご意見を頂きました。昨年度の委託研究に

ついて内山常任理事、手島常任理事から報告を頂きました。三重全日自労の50年史の研究と編集については『皆でたかった50年』にまとめられています。ご購入頂ければ幸いです。

勝部副理事長から今回の議案ではもっとも弱い点のご指摘を受けました。環境問題に関する協同の取組についてです。幸い、勝部さんを代表とするグリーンエネルギーフォーラムの設立が具体化されていることが報告されました。研究所としても一緒になって取組んで行きたいと思っています。

冒頭ごあいさつを頂いた日本労働者協同組合の永戸理事長は、「働くものが自ら出資して、仕事をおこす運動は様々な困難があったし、現在もある。この運動が研究者によって理論化されることはその発展にとって不可欠だと思っている。研究所にそういう役割を期待している。」というお話がありました。また、ボンベイで行われる国際会議の報告をされた一橋大学の富沢常任理事は、新しい協同組合原則に関して「自主自律の原則とコミュニティへの関与について労働者協同組合の実践がその意義を明らかにしてゆくことが求められている」という趣旨のお話をされました。「よい仕事」についての報告をされた内山常任理事は「実践の中から生まれる理論と研究者、研究所の役割」ということに触れて頂きました。理事会の席で北大の山田定市先生からは「社会変革を明晰に掲げる」研究所の存在意義を教えてくださいました。協同組合運動全体が大きな変化を迫られています。時代の変化を十分見据えて、21世紀の協同組合論を実践とともに作り上げて行くために、当面11月に予定された「協同集会」の成功に全力で当たりたいと思います。協同集会は日頃の成果の発表の場でもあります。会員の方々が日頃の研究と実践の成果を持ちより参加されることを期待しています。

総会アンケートから

【鎌田純行】 群馬県

富沢賢治さんの報告に「労働者協同組合運動と労働組合運動との協力は就業機会創出に関して決定的な影響力を持ちうる」とあります。協同総研の労働者会員としてはそうありたいと思います。お話は、労働組合運動との連携について、国際的展開・動向を紹介しているのですが、ボンベイ会議の成果を日本に持ち帰って、どのように関連づけていこうとするのか、大いに関心があります。「日本の労働組合運動と、どのような関わりを持つのか。労働組合運動が抱えている問題点をどのように認識するのか」等々、掘り下げるべき課題が多々あると思います。

「労働者協同組合運動と労働組合運動との協力は決定的に重要である」と考えますが、「どろどろした欲と対立」が渦巻く世界でもありますので、覚悟してかかる必要があると思います。また、基本研究会と自主研究会の両方に関わる課題でもあると思いますので、「労働組合運動との協力のあり方」の掘り下げについて、組織的な方向付けを行う必要があります。

総会出欠ハガキから

【渡辺信江】 島根県

事務所も新しい場所へ移り、これからますます協同総研の果たすべき役割は大きなものになっていくと思います。高齢者協同組合をはじめ教育・福祉分野での協同組合のあり方など幅広い分野での研究が進んでいくよう期待しております。

【竹腰英樹】 埼玉県

日々の活動お疲れさまです。教育・文化・雇用など様々な活動の広がりが感じられます。協同総研が様々な活動のネットワークの発信・交流の場となることを願っています。

【的場信樹】 石川県

社会運動が成熟してきましたと、海外の経験を学ぶだけでは濟まなくなります。日本側からも積極的に情報を発信して、共同研究を発展させる必要性が高まってきています。9月にはV. ベストフ氏が来日します。研究所としてもぜひ共同研究の体勢をとっていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

【菊地陽子】 埼玉県

会費は高いと思いつつも、それなりの内容がある貴研究所の業績に敬意を表します。各種研究会のご案内にはなかなか日程との関係で出席できませんが、所報はたのしく見させていただいております。

【畔上統雄】 東京都

このところ毎度欠席し心苦しく思います。「シンクタンク」として自立するこのむづかしさは、小生も身を持って未だに体験中です。